

リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）（アーク溶接作業 2）

① 作業名 (機械・設備)		② 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害※		③ 既存の災害防止対策		④ リスクの見積り		⑤ リスク低減措置案		⑥ 措置実施後のリスクの発生可能性		⑦ 対応措置		⑧ 備考	
		発生可能性	重篤度	発生可能性	重篤度	発生可能性	重篤度	発生可能性	重篤度	発生可能性	重篤度	発生可能性	重篤度	発生可能性	重篤度
アーク溶接作業	長い溶接ケーブルを使用しているとき、ケーブルにつまづき、負傷する。	適切な長さの溶接ケーブルを用いる。	△	△	△	△	△	△	①溶接ケーブルの設置場所を定める。 ②ビットおよび溶接ケーブルにカバーを設ける。	○	I				
アーク溶接作業	高所で被覆アーク溶接を行い、感電し、墜落し、負傷する。	①墜落防止のためのベルトをつける。 ②交流アーク溶接機用自動電撃防止装置を用いる。	×	△	×	△	×	①交流アーク溶接機用自動電撃防止装置の始業前点検を徹底して行う。 ②絶縁性のある手袋使用 ③溶接作業休止時の電源遮断	○	II		再教育の実施 作業マニュアルの作成			
アーク溶接作業	夏場、狭い空間で被覆アーク溶接を行っているときに、溶接棒が体に触れて感電し、負傷する。	①衣服が濡れた場合、乾いたものに替える。 ②安全教育を徹底する。 ③一人で溶接作業を行わない。	×	△	×	△	×	①交流アーク溶接機用自動電撃防止装置の始業前点検を徹底して行う。 ②溶接作業休止時の電源遮断	○	I		再教育の実施 安全作業マニュアルの作成			
ガス切断・溶接	ガス漏れにより火災・爆発を起こす。	①作業開始時にガス漏れ点検を実施する。 ②作業周囲に引火性の物及び可燃物を置かない。	×	△	×	△	×	①接続部は、ホースバンドなどを用いて確実に締める。 ②作業時の見回り責任者を決める。 ③ホースやホース継手に油、ペンを塗らない。	○	I		漏れ点検の方法を明文化する。			
ガス切断・溶接	可燃性ガス（アセチレン、プロパンなど）の取扱い不良により火災・爆発を起こす。	①容器を直射日光にさらさない。 ②ガスの種類によって通気孔の位置を変える。（アセチレンは下部、プロパンは上部）	×	△	×	△	×	①容器を電気のスイッチや作業箇所から5m以上離す。 ②換気を十分に行う。 ③漏れの点検を常時行う体制をとる。	○	I		教育の徹底			
ガス切断・溶接	高所作業時に火の粉が下部に落下し火災になる。	①防火シートを張る。 ②消火のための水、化学消火器を設置	×	△	×	△	×	①当日の作業スケジュールを全階に徹底する。 ②監視人を常時配置する。	○	I					
ガス切断・溶接	逆火によりボンベが爆発する。	①吹管、火口の作業前点検 ②操作の手順の徹底	×	△	×	△	×	①酸素圧力を過大にしない。 ②火口の過熱(400～500℃)防止 ノズル冷却装置の設置 ③火口はガスの種類に適合するものを選ぶ。	○	II					

災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度
発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い △=時々・可能性がある ○=ほとんどない・可能性がほとんどない
優先度 III=直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。 II=速やかにリスク低減措置を講ずる必要があるリスクがある。 I=必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。
 ※災害に至る経緯として「～なので、～して」「+」「-」になる」と記述